



明石市立
文化博物館

文化博物館だより 第289号

2009年8月21日

みなさん、こんにちは。特別企画展も残りわずかとなりました。

● 特別講演会、満員御礼です！

「幕藩制成立と小笠原忠政」と題して行われた特別講演会。今回は、博物館実習の学生達が会場のセッティングや受付などの手伝いをしてくれました。

講師は、日本学術振興会特別研究員の三宅正浩氏です。「大名とは?」「藩とは?」という問いをたて、大坂夏の陣での軍事編成や、徳川秀忠家光政権での大名の配置がえについて主に小笠原家の事例を見ながら、徳川家康～家光政権にかけて幕藩制が整えられていった過程を追いました。

徳川政権が始まった頃に行われた大名の転封は、地方の大名を監視させるためのものといわれますが、姻戚関係のある大名が近隣に配置されている事例などから軍団を組織するために配慮されたものではないかという三宅氏の持論が紹介されました。



特別講演会「幕藩制成立と小笠原忠政」

最後に質疑応答があり、熱心な方々からいくつも質問が出ました。その中の回答で、秀忠の遺言によって井伊家が家光の後見となり、軍事から政治の世界へ入ったという事に触れ、軍事から政治へと重要視されるものが移行したことの分かる例であると解説されていました。

時代と共に大名の有り様も変化した事がお分かり頂けたのではないのでしょうか。

● 実習生がやってきました

今年も学芸員資格取得をめざして、関西学院大学、甲南女子大学などから6名が、博物館実習に取り組みました。

初日は館内の見学やガイダンス、2日目は資料の扱いの実習、残りの3日は、講演会などイベントの準備の手伝いや展示の企画をたてる課題をしました。

今回は女子学生ばかりで大人しく、終始緊張した面持ちで真面目に取り組んでいました。垣間見た博物館は、どのように映ったでしょうか。



実習初日

イベント準備